

利手と非利手の差異

太さ長さに大きな開きあり

平商校の趣味ある発表

右利きは左手にくらべて右手が發達し左利きは右手にくらべて左手が發達すると言はれてゐるが果して利手と非利手がどの位違ふものか……

平商業學校では此程テニス選手十五名に就いて調べた處によると左の如く非常に面白い結果が表れてゐる即ちまず手の長さでは平均利手の七一五センチに對し非利手六九九で利手の方が一六センチだけ長い更に普通人の利手七〇四センチ非利手七〇センチに對しては利手では一センチ長く非利

手では逆に〇一センチだけ短い、次に腕の太さでは平均前腕部で利手二五、九センチ、非利手二三、六センチで利手の方が二、三センチだけ太く普通人の利手二四、五センチ、非利手二三、八センチに比し利手は一四センチ太く非利手は之れ亦反對に〇、二センチだけ細い握力も大變差があつてその數は九、五となりラケットをにぎる習慣がかくも腕に大きな發達を興へた事は驚異すべき記録とされてゐる

縣下最高の漁獲

盛厚丸が優勝

水産會で表彰

江名町吉田善吉氏所有船盛原丸八年度に於ける漁獲物は鯉四萬六千三百四十一貫金額二萬五千九百五十一圓、秋刀魚は一萬四千八百二十九貫金額一萬八千七百七十一圓といふ優秀な成績を挙げたので縣水産會では近く縣下一優秀船として優勝旗の授與並に表彰を行ふ事になつた

平商送別會

餘興に勸進帳

平商業學校本年度卒業生の送別會は本日午後一時より同校講堂に於て開かれた四年木田英雄君の開會の辭に次いで四年木幡八十八君の送別の辭校長訓話卒業生總代四家肇君の謝辭五年關場修一郎、同山田正直一年、

牝馬飼育獎勵

農林省畜産局より石城郡産馬畜産組合に對し郡内左記三氏に優等牝馬飼育獎勵金三十圓並に獎勵金授與交付する旨一日付で指令あつた
▲上遠野村上遠野茂七
▲田人村小野好文▲澤渡村佐川保名

小學校長協議

郡下各小學校長會は本日午前十一時より平第一小學校講堂に於て開催されたが出席者五十八名にて教員の思想取締方法其他數項に就いて種々協議した

地久節の佳辰に

母校へピアノ寄贈

櫻ヶ丘會で御降誕記念に

既報一磐女卒業生よりなる櫻ヶ丘會では皇太子殿下御降誕奉祝記念として母校にピアノ一臺を寄贈する事になり過般東京山葉樂器店に注文してあつたが本日到着したので來る六日の地久節を卜しこれが贈呈式を舉行する事になつた

水道斷水

城山本丸地内
平町水道部では目下舊城跡本丸地内に消火栓取付工事中のため同地内一帯は本二日午後九時より明朝一時迄斷水すると

榮譽の高等官校長

石城郡内に輝く三氏

全國小學校長の委任官待遇は一日付を以て發表されたが内本郡關係でこの榮譽に浴ある校長は左記三氏である
湯本入山尋常小學校長

- 岩堀寅次
- 澤渡尋高小學校長
- 鈴木佐四郎
- 好問尋高校長
- 吉田庄太郎
- 高等官八等を以て待遇せ

らる(各通)

郡在郷軍人聯合協議會

郡聯合分會では五日午後一時から平町マルトモホールで評議員會を開催八年度決算九年度豫算編成につき協議次いで役員の改選をなす

平町人事

- △八幡小路二六當時神谷村宇石脇三三長澤貞吉氏長男洋
- △古鍛冶町二九佐藤繁次氏三女准子

平職界紹介所報告

- △人を求める方
△商店雜役 十六七才位
無學にても可月十圓位
△トラック助手 十八二十才 尋卒 月四圓位
△炊事婦 四十才位迄 教
育程度 不問 月六七圓
△女中 二十才前後 尋卒 月五六圓
△職を求める方
△紡績工 十四才 尋卒
給料面談
△看護婦 十五才 高卒
給料面談
△ミシン見習 十五才 高卒
給料面談

木村外科醫院

平町五丁目橋際
電話九〇三番



玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番

魂の這入つた!

自轉車とリヤカー

フタバ式リヤカー發賣

フタバ商會
元 平新川町月見橋際

評判香りのよい

電熱ほうじ茶發賣

- 一號 一斤六〇 四半斤一五
- 二號 一斤四〇 四半斤一〇

大勝園で買った茶は父様母様おすきの茶客のほめる茶喜ぶ茶

大勝園
電三九六番

現金千五百圓

原告に支拂ひ

例の千五百圓訴訟

けふ平支部で判決

既報高久村大字下高久字前ノ内二七農鈴木太吉氏が昨年一月十七日次男房吉に千六百餘圓記入の郵便貯金通帳と印鑑を窃取されたので直ちに此旨を平郵便局に口答で届けたにも拘らず二月十三日前記房吉が偽造した委任状を持って拂戻し方請求した房吉の妻ツルに千五百圓の拂戻しをしたので、

獨學の給仕君

見事試験に合格

本縣巡查成績發表

既報過般平署で執行された本縣巡查の採用試験には受験者八十三名の多數に達したが大部分は嚴重な第一第二兩試験體格検査で篩ひ落され今回縣で發表した合格者廿六名中平署での受験合格者は堀江久雄、森合徳、根本利雄の三名である因に最優秀の成績でパスした平町鎌田町の堀江君は二年前より平署に給仕として務め乍獨學で見事大學専門學校出の受験者を尻目に採用されたものであると

平軍人分會

平町在郷軍人分會では三日午後七

中寺▲十二 永戸村 渡戸 合戸 浮矢 十三日 同上永井 下永井▲十四 日箕輪村大和 柳小屋 高野▲十六 上遠野村深山 根岸 上遠野▲十七 日向瀧▲十八 磐崎村藤原

功勞警官表彰

平署の六氏

平警察署の左記六巡查は去月中それ〴〵窃盜犯詐欺犯人等を逮捕したので此の程畑山知事より金一封を添へて表彰された

蒲團で鼻口を塞がれ

哀れ嬰兒の窒息死

不注意の若き母御難!

内郷村大字宮字竹ノ内八六居住坑夫渡邊幸治の妻イチノ(三)は昨日午前一時頃自宅で生後廿五日の長女サトと睡眠中不注意のため掛布團で幼兒の鼻口が塞がれ窒息のため遂に骸と化して居るのを朝になつて発見、届出に依り平署で検視した

胡摩澤改修

けふ役場に陳情

平町胡摩澤地内土管屋前町道九十餘間は最近路面の破壊箇所が多く降雨毎に交通が止絶する有様なので本日地元十五區長赤塚勇吉氏より町役場へ改修工事着手方の陳情書を出して来た

築港疑獄控訴公判

来る四日宮城に開廷

小名濱築港疑獄事件の首魁樗木篤夫は昨年九月平支部に於て懲役一年執行猶豫三年追徴金二千三百六圓四十八錢を言渡されたが不服として宮城控訴院に控訴したことは既報したがこれが第一回公判は来る四日午前十

文坊の奇禍

高所から落ちて

湯本町字臺ノ山入山炭礦長屋居住永久保要の長男文男

明日の天気 今夜は南西の風 明日は西北風の 天気良し

今日晩の部 後六、〇〇(子供の時間) 物語「名提督ネルソン」 未定 後六、二五 言葉の講座 (第十四講) 音節と單語 神保格 滿洲帝制奉祝記念ノ夕

明日の部 前七、〇〇 基礎獨語講座 (二十三) 橋本忠夫 前九、一〇 料理献立 前〇、三〇 家庭講座 「編物」七山協敏子 後〇、〇五 管絃樂 コロ ナオーケストラ指揮紙泰 後二、〇〇 家庭講座「長唄のお稽古」(六) 杵家彌七 後五、〇〇 職業紹介事項 後六、〇〇 子供ノ時間

お話し「おひなまつり」西澤 笛吹 後六、二五 基礎佛語講座 (十四) 目黒三郎 滿洲帝國 奉祝記念の夕 後七、二〇 時事解説 法學博士上川彦松 後八、〇〇 新講談「滿洲帝國樹立に際して」伊藤 痛遊小村兒玉兩先生を追憶す 後八、四〇 歌繪卷蘭に寄す 本井連山社中

米價漸騰の氣配

きのふ共販の成績

昨報石城販賣利用組合平農業者の共同販賣は昨日午後一時より同所で行はれ五等米三百三十八俵を入札せる結果平均建値八圓四十四

都計委員の選挙

町會で五日執行

既報平町では来る五日九年度豫算町會を招集するが當日は懸案の平町の都市畫計地方委員三名の選挙をも行ふ事になつた

剣道階級試験

成績は月末發表

石城郡武徳殿支部の剣道階級試験は既報の如く昨日正午より平署道場で六段小川文章九段鈴木忠正 藤井一の三氏審判となつて行はれたが受験者は初段十六名二段十八名 三段五名 四

開市日割

本郡に於ける昭和九年度二歳駒せり市は三月廿日の上遠野村中寺を最初として郡内五ヶ所左記の日割を以て開かれる

三月三十日 四月三日 澤渡村中寺 四月五日

裁判所たより

△植田町大字金畑二四洋服商大貝善八(三)は無免許で去月十一日同字地内に於て空氣銃を使用ムクドリ一羽を捕獲し狩獵法違反として罰金十圓

△上遠野村大字上遠野字本町六四農上遠野彌一郎(八)は去る一月十四日午後三時頃同村字仲ノ町木賃宿三浦屋方に於て同村田代幸人等と花札賭博をなし罰金三十圓

△江名町字中之作二二漁夫吉田朝太郎(三)は去る一月二日午前十時頃同町字折戸四六漁業吉田豊太(三)所有の機船第二福田丸に船長代理として乗り込み漁獲禁止區域の茨城縣久慈町の沖合九哩の海上で機船底曳網漁業をなし豊太は罰金六十圓朝太郎は罰金三十圓に本日各平區裁判所に於て略式命令を以て處分された

銘劍秘笈録

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫
徳川家に崇る村正

江戸で町道場を

先日の人と聞いて監物が
鈴木重太郎の顔をジッと睨
んで

監「成程見た様な面だと思
つたら雨宿りをして酒を飲
つてゐた奴だな、おとり、
貴様の手引きをしやがつた
な」

と「冗談言つちやいけな
いよ、私だつて今吃驚した處
ぢやないか」

女中のおたけが鐵五郎の
兒分の熊藏といふ男を見て
た「オヤお前はどの頃來る
屑屋さんぢやないか」

熊「何を言つてやがんだい
スベタ奴、お上の御用を聞
いてゐる者だ、餘計なこと
を言ひやがるとためになら
ねえぞ」

と落し付けたのは宜いが
おとりといふ監物の姿が
お「あ、おたけやお前に何
だか淫らしいことを言つて
横面をはりとばされたとい
ふのはこの男かい」

た「あ、そうなんです、
御新造さん」

一同ブツと噴き出した、
三吉が

三「熊、手前そんな真似を
したのか」
熊「實は兄い色仕掛けて



操り出そうと思つたんで」
三「馬鹿野郎、柄にも似ね
えことをするから失策るん
だ、外見ねえ野郎ぢやねえ
か」

監物始め男女五人が八丁
堀の大番屋へ引かれ、殿し
くお調べになると、最早免

れてゐたりしたので之は親
許へ引き渡された、おとり
も吉原で遊女をしてゐたの
を監物に受け出されたので
ございませう五人はそれい
罰か極つて御處刑となりこ
れで江戸市中を騒がした水戸
家の寶藏破り其の他諸方の
土藏を破つた五人組の大賊
の一件も落着に及びました
その功に依りまして鈴木重
太郎は同心上席にまで出世
を致しましたお話變つて此
方は溝口五左衛門月野の河
原に於て茂兵衛の娘おちか
を殺し、身をかくしてゐた
が鏡に向つて己の面を見
ると前歯は欠け、面部は大

れぬ處と覺悟して中根監物
始め二人共白狀致し、尙相
棒の二人も判明したからこ
れは直ぐにお召捕となり傳
馬町の牢へお送りになる
おとりおたけの兩人は女の
事だ監物がさういふ悪漢と
知らずに且那にしたり雇は

きな疵が出来て、昔の面影
とは大分變つた、宜しこれ
なら江戸へ歸つても最早溝
口五左衛門と思ふ者は誰も
あるまい、我國を褒め、
江戸の上になりといふ事が
ある、況して先祖代々江戸
に在住し、江戸で生れて江

戸で育つたものが、何處へ
行つたところが落付くもの
か、江戸へ歸らう、江戸で
何とか身の立つ様に考へよ
う、そこで大膽にも江戸へ
立歸つたが、途中で悪事を
働いて二百兩ばかり持つて
ゐたので青山七丁目劍術
道場の空屋があつたのを幸
ひ、買ひ求め名前を水上五
太夫と改めて神蔭流指南の
着板を上げた、悪い奴だが
腕前は相當に出来る、殊に
しばし、劍の下を潜つて來
たので只竹刀でばかり腕を
磨いた連中とは大分違ふ、
好運にも近所の若い者だの
が澤山稽古に來る如才なく
立ち廻つて時々馳走など致
すから誠に評判が宜い、そ
の内に斯う云ふ所へ尋ねて
來る武藝者がいくらかある
自分一人で稽古に骨が折れ
るから、そんな連中の中な
ら横澤國之助、本多彌九郎
白旗彌九郎といふ三人を師
範に雇ひ入れた、始めは
町人相手であつたが、その
内に旗本の次三男御家人な
どで稽古に來るものも大分
來た、尤も旗本の次三男御
家人といふ性のよくない
連中が多く何處に道場が新
らしく出来たといふ評判を
聞くと直ぐに出掛けて行つ
て他流試合を挑み先生の腕
が出来なければ小青金をね
だる甚だしいのになると賭
勝負を望む者がある、如才
ない五左衛門はさういふ者
が來ると自分は相手をしな
いで横澤、本多、白旗など
を相手にしてその後、馳走
をして歸す、それが爲め入

り替り立ち替り遊びに來る
つまり宣傳に斯ういふ連中
を使ふ、その内には真正の
ためになる弟子も附くとい
ふ鹽梅、或る日五太夫が例
の三人を連れて稽古休みを
幸ひ愛宕山へ參詣旁々遊び
に出掛けて高い所から四方
の景色などをながめ腰折な
どを詠んで打興じてゐる

御用命印刷物の總發行所
常磐日報印刷株式會社
電話三六〇番

小店員數名募集
年齢十五才ヨリ
優遇
御希望ノ方ハ午後一時
ヨリ本人御來談下サイ
平町町一七
レストランサロン
電話三五二番

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雜誌が
自由に讀める
川崎巡回文庫
電話六三〇番
(申込次第規則書進呈)

學校卒業賞品特賣

各學年卒業修業期が近づきました。
各種賞品類も全部荷揃致しました御仕入の絶
好期、卸賣特に御務め勉強致します

景品賞品類
進物贈答品
恩賜賞品
記念表彰品
各國産漆器

共榮漆器店
平町三丁目北裏通り

店員募集
本年尋卒 仕着 小使月二圓
同高小卒 仕着 小使月二圓
外交員十八九才より二十才迄

父久保田六五郎儀三月一日死去仕候
に付生前辱知諸彦に謹告仕候
追て葬儀は來る三月三日午後一時自宅出棺九
品寺に於て佛式相營み申可候
昭和九年三月一日
平町十五丁目

總代 友入 總代 親戚 友入
久保田英雄 室田駒藏 西森正吉
關内正一 平澤勝次 山下治郎

白井博之儀二月七日死去仕候に付生
前の御交誼を拜謝し謹告仕候
追て葬儀は來る三月四日午後一時郷里福島縣
石城郡上小川村自宅に於て佛式に依り相營み
可申候
昭和九年二月二十五日

副子 白井 親族 白井
總代 白井 友入 白井
淺野 島崎 友入 淺野
山崎 野崎 友入 山崎
安島 野崎 友入 安島
佐藤 野崎 友入 佐藤
鈴木 野崎 友入 鈴木

總代 鈴木 友入 鈴木
木藤 野崎 友入 木藤
辰庄 野崎 友入 辰庄
三太 野崎 友入 三太
郎郎 野崎 友入 郎郎